

# 京都部落問題 研究資料センター通信

第3号

発行日 2006年4月25日 (年4回発行)

編集・発行 京都部落問題研究資料センター



## 報告

### 部落史連続講座

#### 近代京都の被差別部落II

前号に続きまして、昨年開催いたしました「部落史連続講座―近代京都の被差別部落 その2―」の第三回と第四回の講座報告を掲載します。両回とも三十名を越える方々が熱心に受講されました。

第三回

喜田貞吉と部落問題

―京都を中心に―

講師 吉田栄治郎さん

(奈良県立同和問題関係史料センター)

第三回目の講座は二〇〇五年一月一八日、奈良県立同和問題関係史料センターの吉田栄治郎さんをお迎えし、「喜田貞吉と部落問題―京都を中心に」と題して開催されました。

喜田貞吉(一八七二―一九三九年)といえば、一九一九(大正八)年七月、喜田の個人誌『民族と歴史』の第二巻第一号「特殊部落研究号」を刊行し、部落史研究に大きな足跡を残している歴史家です。徳島県に生まれた喜田貞吉は、東京帝国大学を卒業後、文部省で教科書検定の仕事をしますが、一九一〇(明治四三)年、南北朝正閏(せいしゆん)問題が起こり、これを機に喜田の

京都でのかわりが生まれます。本講座では喜田の部落史研究に当たって京都がどのような役割を果たしたのかについて話したいと述べられました。

喜田貞吉について今までどのような評価がなされているかという点、異民族起源説を否定したこと、近世政治権力創出論につながる論者からは高い評価を受けていること、宗教起源説の側からの批判を受けていることなどを紹介されました。

だが吉田さんは、新たに次の視点が喜田の部落史研究には必要ではないかと指摘されました。それは、部落問題の状況の変化に伴い、研究の質にも影響がなされていることを以下の数点にわたって示されました。奈良県において部落問題をとり巻く状況は、環境改善が進みほぼ格差是正が行なわれたにもかかわらず部落差別が解消したかといえば、差別意識は拡大の方向をたどっているということです。これは半世紀にわたる取り組みを通して差別意識を根絶させることが出来なかったということであり、県民全員が負うべき課題であります。また、政治決定論で部落問題

を認識することに対して「社会的な倦怠・反発」が見られるということです。さらに、奈良県下には、近世のエタ村の系譜をひく地区が七〇カ所、それに対して「夙」や「隠亡」などの系譜をひく地区が一四〇カ所あり、これらの地区は経済的に豊かであっても地域社会の中で強い差別を受けているということです。このことは部落だけが唯一の被差別者とはいえないのではないか等、部落問題認識に大きな変化が見られると述べられました。

次に「夙」や「隠亡」など「多様な被差別民」は、すでに喜田が『民族と歴史』で発掘しているところであり、多様な雑種賤民を取り入れた研究が奈良県では重要であることから喜田貞吉と、村共同体の問題を取り入れて部落問題を考察する渡辺広の研究を、奈良県立同和問題関係史料センターで基礎に置いたということです。このような部落問題をめぐる状況の変化とともにこの間、「夙」や「三昧聖」等の多様な被差別民の研究が進み、これらからも今日改めて喜田を評価する機運が生じているということです。

喜田が何故部落問題に関心を持ったようになったかという点については、一八九六（明治一九）年、帝国大学文学部国史科を卒業した喜田は当代を代表するエリートであるとともに村共同体に対しての思いの強さがあった、超エリート面の面と土俗的な面を併せ持つ複雑な面を喜田は持つていたからであり、村共同体や土俗的なものへの関心がなければ部落問題はわからない、読み取れないと指摘されました。

喜田と部落問題との出会いは、一九〇六（明治三九）年頃、アイヌ民族、土蜘蛛族に興味を持つており、その後、一九〇九（明治四二）年、京都帝大の講師になった時、自宅近くの天部を知ることとなり、天部の竹中半左衛門を訪ね、古文書を見せてもらったことを喜田は『民族と歴史』誌上で書いています。これが部落問題との出会いについて従来までの喜田による定説です。これに対して、吉田さんは次のようなことがいえるのではないかと話されました。

『歴史地理』創刊時（一八九九年）から中心メンバーであった小林庄次郎が「余戸考」で部落について

異民族起源説を唱えました。この時は、喜田は小林説に批判をしておりません。ところが、一九〇二（明治三五）年頃、小林と何らかの齟齬が生じ、小林が『歴史地理』の編集から退く中で、小林の異民族起源論に対して喜田は没落論を主張し始めたということです。

この後、喜田が部落問題にのめりこみ、新たな展開をする重要なきっかけになったのは米田庄太郎とのからみが大きいと指摘されました。米田庄太郎といえば奈良県の部落出身でアメリカ、フランスで社会学を学び、一九〇七（明治四〇）年、京都帝国大学講師になった社会学者です。翌年、喜田は同大学の講師となりました。喜田と米田の両者の関係ですが、京大教授に就任・辞任の時期が同じであったにもかかわらず、喜田が米田について触れているものはわずか一カ所しか見られないということです。米田にいたっては喜田に触れたものはまったくなく、このことから両者の関係は相容れないものがあり、仲が悪かったのではと推察されるといえます。その原因を語学、容姿等について言及されました。英語が出来ないことを終

生の悲しみとする喜田にとって六カ国語に通じ、容姿端麗の米田の存在は、喜田に部落問題を貧困・没落者論では到底捉えきれないと感じさせたのではないだろうか。このことが喜田の『民族と歴史』発刊につながり喜田が部落問題研究に本格的に取り組みきっかけになったといえるのではないかとということです。

部落問題について多くの研究を残している喜田の今日的な意義について、喜田のケガレ論ではケガレを汚い、低位なことと見る単純なケガレ論に過ぎないとも言えるし、賤から聖への不分明な境界があることをわかった上で単純化しているのかもしれないということです。さらに、喜田は土俗的なものへの関心が強いけれども民間宗教や呪術的なものへの関心が薄いが、これもケガレと同じように奥があるのかもしれないということです。

最後に、喜田をどう受け継ぐか、何を受け継ぐかという点について、差別を受けるのは部落だけではなく、また、差別はする側の問題であるという指摘など受け継ぐ点は多大のものがあるという話を話

されました。部落学習をどう進めていくかを考える上で喜田の思考から学び取っていくことは意義あることであると結ばれました。

当日の出席者の中に喜田貞吉を知っているという方がいらつしやいました。一人の方は崇仁小学校に奉職されていた方で、伊東茂光の紹介で百万遍の寺に住んでいた喜田を訪ねたことを話されました。もう一人の方は、崇仁小学校出身の方です。喜田が小学校に来校したことを話されました。ともに昭和一〇年代の頃の喜田貞吉についてのお話を聞くことが出来ました。喜田を部落史研究の先覚者として見るだけでなく、吉田さんのお話にもあった通り喜田の研究成果を今一度読み直すことも意味があるのではと感じさせられました。

吉田さんの喜田貞吉についての論稿は「喜田貞吉と部落問題」(『しこく部落史』第七号、二〇〇五年八月)、「喜田貞吉と部落問題―部落史研究をめぐる諸環境から―」(『しこく部落史』第八号、二〇〇六年三月)があります。これらをご参照ください。なお、上記の論稿は当センターに所蔵しております。

(運営委員 中島智枝子)

#### 第四回

### 伊東茂光と崇仁の教員たち

講師 八箇亮仁さん  
(河合文化教育研究所)

第四回目の講座は二月二日、河合文化教育研究所の八箇亮仁さんに「伊東茂光と崇仁の教員たち」と題して講演していただきました。

八箇さんは始めになぜこのテーマを設定したのか、の理由について言及されました。『京都の部落史』史料収集の時、伊東の思想にひかれ、彼にぶつかっていく必要を痛感した。そこで私は、二〇年前、伊東茂光について何人かの方々と『被差別部落と教員』(明石書店一九八六年)を刊行し、そこにまとめたこと語られた。今回は伊東を教育者としての側面だけでなく、型破りな人間としての側面を探ってみたいと主張された。なお、今回はテーマに「崇仁の教員たち」を加えたが、彼等の中から戦後の同和教育を担った先生たちが生まれている。そこにも注目したい、と問題意識を付け加えて述べられました。

一九二〇年に伊東茂光が東七条を校区とする崇仁小学校の校長と

して赴任し、敗戦の翌一九四六年、校長を辞任するまでの約二五年間を軸に、当時の社会状況や、地域改善運動、水平運動、融和運動などからめながら、伊東の教育観や崇仁小学校での教育実践について、レジュメと詳細な資料を基にお話をすすめられました。

伊東校長について、まず多様な人たちとのつながりや思想との出会いがあったことを述べ、具体的に融和思想、報徳会の信奉者、労作教育に取り組む人、西の天皇機関説を唱えたといわれる京大の憲法学者らとの関係を例に挙げて紹介されました。と同時に、八箇さんは伊東校長自身を、吉田松陰の松下村塾を高く評価する「志士仁人的信念の人」であり、また「大陸浪人的」な面があったと強調されました。

崇仁小学校に赴任した五年間は、校区では彼の基盤形成期といえる激動の時期に当たり、青年団を中心とした就学への督励や、夜学への督励などの改善運動の取り組みが始まっていました。一方で、京都駅員による子どもへの殴打事件、市会での差別発言などの差別事件が起こっていました。全国的な動

きとしては、大日本平等会による同胞差別撤廃大会が開催され、伊東校長も賛同者の一人に名を付けていました。その直後に全国水平社が創立されると、彼は水平運動とも協調しようと思われました。翌年差別撤廃団体「公平会」が誕生すると、伊東校長は全国水平社委員長の南梅吉とともに理事に就任します。

このような伊東校長の思想と行動を右とか左とか線引きできないと述べられた。時代は降りますが、その一つの例として、一九三三年高松差別裁判糾弾闘争の頃、崇仁小学校でもその糾弾会が催されましたが、その一方で崇仁青年団主催の敬老会で、小学生が「肉弾三勇士」の劇を上演していたことを挙げられました。

崇仁小学校赴任後の伊東校長は、教員の人事刷新に努め、一九二四年には和歌山師範出身の田中邦太郎を、翌二五年には、京都帝大卒業の有馬良治と京都師範学校卒業の土屋克己を招請しました。

有馬良治は一九世紀の教育学者ペスタロッチを敬愛し、教育に希むに当っては、労作教育、特別学級、スポーツなどの教育実践を提

唱しました。有馬の提案によって、一九二六年には「ペスタロッチー九十九年祭」、翌二七年には百年祭が催されました。一方で児童の学力向上のために、知能検査に基づく能力別学級編成を一九二六年から開始しました。有馬は知能のおくれた子どもを集めた特別学級を編成し、その学級の担任になっ

ています。なお有馬については、詳しくは秋定嘉和「一九三〇年前後、人権教育創造の試み」(『一九九九年度人権講座講演録』世界人権問題研究センター、二〇〇一年)がありますので、参考にしてください。

伊東校長が崇仁小学校に赴任した当時は、大正デモクラシーの思潮がある一方、国家意識の昂揚や国家主義の台頭がみられました。崇仁小学校の教育も大正デモクラシーの教育に影響された一面があるとともに、「塾風の教育」、「志士仁人の教育」といった、少数の人間の間で鍛えてゆくという二つの面があったと述べています。その中で、八箇さんは特に「塾風教育」という面を重要に考えておられるように見受けられました。

このような教育方針のもとに、鍛錬主義的な教育が実践されまし

た。座禅による修練の静座や、「ド・ビ・ナン」精神の講話や独特の方法でする剣道の実践がなされました。鍛錬主義教育の一環として、陸上競技の指導に力を入れ、その結果「スポーツ崇仁校」の名を全国に馳せ、新聞にもしばしば報道されるようになっていきました。

子どもたちには「奥歯をギリギリ噛め」と教え、「何糞ッ」と奮起できる子の育成を目指しました。「何糞ッ」は人間の生き方として、今日でも現実に根づかせたい精神になりうると八箇さんは強調されました。

最後にまとめとして、八箇さんは次のように述べられました。「伊東茂光」を考えるとということは一校長のあり方というより、近代日本を支えた指導者意識をどう考えるかという問題に通底することだと考えられる。今日、意識的に取り上げねば消えてゆく人物であるが故に、彼の残したものを読めば読むほど、将来の日本をどうすべきか考えているように思えてならない。彼の思想は国家主義、皇室主義だが、それを国民の思想として生き抜こうとした点に魅力

があるとともに、そのつまずきは、現在の平和で安穏としている国民の虚妄性を撃つものになっていると指摘されました。

二つ目に伊東校長にみられる崇仁教育の原点には武士の塾風教育、鍛錬主義があると述べています。信念の教育は、男性主義的であり、エリート主義的であるといえるが、それは国民教育の道徳や同和教育には還元できないがため、公教育ではいまだその解決がみられていないと語られ、そのことが今日残された課題となっていることを示されました。三つ目に伊東校長の幅広い人間関係をどう理解するの

か。また皇室主義者としての伊東校長の思想をどう理解するかについても簡単に述べられました。なお私見を添えると、まとめの部分には、もう少し具体的に述べていたできたかったと思っています。

講演の後、質疑応答にはいり、二人の方から意見がありました。伊東校長の在職中、教員として勤務していた方、生徒として在学した方から、それぞれ八箇さんのお話を裏付けるように「伊東先生は清濁併せ呑む人、左翼だからつき合わん、右翼だからつき合わんと

いう人ではない、誰とも胸襟を開いて語り合う人だった」との発言でした。

以上、縷々概要を記してきましたが、八箇さんのお話の全容を正確にご紹介できず、筆者の印象に残ったところだけの偏ったものとなりました。詳細をお知りになりたい方はレジュメと資料を事務局までお申し出ください。参考文献はたくさんありますが、その一部を紹介しておきたいと思えます。

八箇亮仁「伊東茂光と水平社運動」(『京都部落史研究所紀要』第二号、一九八二年三月)

同「崇仁融和教育の形成」(『京都部落史研究所紀要』第四号、一九八四年三月)

神楽子治『校長ありき』(部落問題研究所、一九八七年)

『京都の部落史 第二巻』(京都部落史研究所、一九九一年)

秋定嘉和「人生における教育の重要性」(『講座・人権ゆかりの地をたずねて』世界人権問題研究センター、二〇〇四年)

(運営委員 湯浅孝子)

## 本の紹介

鈴木良著

## 『水平社創立の研究』

高野昭雄

本書は、著者の二〇年間にわたる研究の成果がまとめられた労作である。私の力量では、的確な紹介など、到底覚束ないが、以下自分なりに読み取ったところを述べさせていきたい。

本書の構成は以下の通りである。

- 序章 地域支配構造の成立
- 補論 地域史と水平運動史の方法
- 第一章 水平社創立の前提——燕会について——
- 第二章 『よき日のために』考（その一）
- 第三章 『よき日のために』考（その二）
- 第四章 真宗教団批判の展開
- 第五章 京都における水平社の結成
- 第六章 全国水平社創立大会について
- 第七章 続・京都における水平社の結成

## 第八章 地域支配の構造

——いわゆる水国争闘事件の分析を通して——

本書の序章と最終章（第八章）は、それぞれ「地域支配構造の成立」あるいは「地域支配の構造」と銘打たれている。このことから窺われるように、本書では、水平社創立の問題点が、地域支配構造との関わりの中で明らかにされる。分析対象となる地域は、水平社創立の動きが始まった奈良と、全国水平社創立大会の開かれた京都である。著者は、全国水平社創立の問題点を歴史的な文脈の中でとらえる。こうした分析によって、差別—被差別の二項対立や超時代的な差別意識の強調による、いわゆる部落史研究の狭い見地を乗り越えている。部落を疎外し、排除する近代日本の「町と村」の秩序構造を、史料の探索と精緻な分析を通して浮かび上がらせた。

以下、その「地域支配の構造」にしばって、本書をまとめさせていた。以下、その「地域支配の構造」に

## 「奈良における地域支配構造」

序章、第一章、第八章などでは、奈良県における地域支配構造が分

析される。水平社創立の動きが始まった奈良県は、部落人口率、部落平均規模といずれも全国最高の数値を示していた。

明治期に成立した地方自治制では、旧村の慣行が重視されるが、これは、近世以来の村落の基礎をなした共同体が継続し、部落の疎外が続くことを意味した。

奈良県の一般農村では、土地所有による階層序列が、権力の地域支配構造を形成していた。

著者は、〈A〉寄生地主、〈B〉小地主・自作農、〈C〉小作貧農の三極構造を示し、中でも〈B〉の階層によって形成される小農共同体の重要性を指摘する。〈B〉の階層が、前近代的な慣習を維持し、近代天皇制を支える中核となっていた。部落を排除し疎外する村の構造も、この共同体に基礎を持つていたのである。

これに対し、〈C〉の階層は、小作だけでは生活できず、さまざまな日雇仕事に従事していた。〈C〉の階層は、明治時代、〈A〉・〈B〉の階層によって沈黙させられていたが、大正中期には、小作争議をたたかうことになる。水平社創立期は、地域支配構造の最初の動揺期であった。

こういった一般農村に対し、部落の社会構造は、主に第八章の「水国争闘事件」を通して明確にされる。「水国争闘事件」は、一九二三年における水平社対国粋会の争闘事件を指すが、その内実は、一般農民対部落民の対立であった。一般村では、まず〈B〉の小地主層に属する大字総代が水平社に対抗する方策を提唱し、村長に迫って村としての処置をとらせた。〈A〉の地主層に属する村長は、各大字の上たって村全部を部落側と対立させた。国粋会はこうした社会的権力の手先であった。

これに対し、部落では、〈B〉の小地主・小営業主が上層をなし、この層が村総代を出していた。水平社も〈B〉の層がヘゲモニーを握っていたが、運動の主力は、〈C〉の下層階級にあった。従来上層は問題の揉み消しをはかることもあったが、水平社による全国的結集の力により、それを許さない運動も起こっていた。

部落は部落内婚によって血縁的な結びつきが強く、同族意識が強く固であった。しかし、内部では、〈B〉・〈C〉間の二極対立も見られるようになっていたのである。〈C〉の下層民衆は、この地域全

体の土木建築、運搬等の労働力提供の重要部分を担っていた。土方は各地の親方に日当で雇われ、親分は国粋会を構成していた。

著者は、こういった地域社会の構造を、丁寧な史料分析の中から浮かび上がらせる。

大正期は、一般農村でも部落でも、小作人など下層階級の大きな立ち上がりがあり、それまでの秩序であった有力者の支配を揺るがしていた。水平社結成は、米騒動後における民衆のエネルギー高揚の中から生まれたのである。

#### 「京都における地域支配構造」

第五章から第七章にかけては、水平社創立の問題点が、京都の地域社会構造との関わりの中で明らかにされる。水平社創立過程においては、南梅吉を中心とした穏健派と吉崎民之輔等を中心とした部落民の声を結集した大衆的な動きとの激しい対立があった。

後者の路線は創立大会で上田荘吉発言問題を追及しようとする。しかし、部落、ことに東七条部落民の怒りが沸騰することを恐れる官憲は、南をはじめとする「穏健派」と協力してこれを押さえこもうとした。

官憲と「穏健派」との協力過程の中で、存在感を持つのが、博徒の親分・増田伊三郎である。

当時は、京都市中でも騒動や乱闘が起きれば、博徒がこれを鎮圧していた。増田は調停者の切り札であり、京都市中の博徒の間に強い力を持っていた。

水平社創立大会費用や運動費の捻出に困った南を、資金面で援助したのが増田であり、その後には、官憲の意向があったのではないかと本書は論じる。

近代京都の都市構造は、町と町の連合である学区がその基盤にあった。大正中期はこの都市構造の転換点であった。市中心部でも、町・公同組合の主導権を取る有力者・家持の支配に反対する借家人などの動きが起ころ。

部落内でも、差別事件を警察と協議して穏便に解決しようとする幹部と、それでは不十分だと反発する下層の対立が起こってくる。

こういった下層からの新しい動きに対し、反水平社をかかげる国民研究会が結成される。国民研究会は、東七条部落の資産家、京都経済界の有力者、市会議員、さらに国粋会の増田伊三郎など、京都市内の「秩序維持」をねらうほと

んどの階層から支持されていた。

#### 「おわりに」

以上見てきたように、本書は、農村地域における「むら」の構造ならびに京都という伝統的都市の構造と動揺を浮かび上がらせる。本書の中では、部落がいくくりにつえられることはない。村と部落の対立や、部落内部の階層対立、その中で博徒の役割などが、史料の徹底的な分析を通してあぶりだされる。登場人物が生き生きと描かれているのも印象的である。

ただ、本書は、階層間の対立構造を論じることに重点を置いているため、各階層内部での多様性（例えば思想等）が、十分には描ききれていない面があるのではないかと感じられる。その点は、今後の課題になるかもしれない。

史料の厳密な読み込みと、立体的、多面的な地域社会構造の把握に、私は大いに刺激を受けた。本書は、水平社創立史研究にとってはおもしろいこと、近代地域史研究にとつても必読の書となろう。

（部落問題研究所刊、2005年）

## 2006年度部落史連続講座 一京都の被差別部落と教育 その1一

- 第1回 5月26日（金） 「京都の番組小学校と女紅場」  
辻 ミチ子さん（前京都文化短期大学）
- 第2回 6月9日（金） 「協同夜学校と竹中庄右衛門」  
中島 智枝子さん（帝塚山大学非常勤講師）
- 第3回 6月30日（金） 「田中親友夜学校と上田静一」  
白石 正明さん（九州大学非常勤講師）

◇時間：午後6時30分～8時30分◇場所：京都府部落解放センター2階 実習室◇参加費：無料



病市民学会刊) / 『職業と世系に基づく差別』 (部落解放・人権研究所編) / 『メディアを人権からよむ』 (中川健一著) / 『新版 戸籍と人権』 (二宮周平著) / 『和人文化論』 (川元祥一著) / 『人間選別工場 新たな高校格差社会』 (斎藤貴男著)

新たな「部落地名総鑑」を回収 30年の時を越えて 北口末広

差別の歴史を考える 19 文明開化政策の展開 ひろたまさき

**部落解放研究 168号** (部落解放・人権研究所刊, 2006. 2) : 1,000円

特集 差別事件の動向と糾弾の法的検討

最近の差別事件の動向・特徴とその背景 北口末広 / 「差別糾弾闘争の法的根拠」についての一考察 内田博文 / 特集資料 意見書一法務省人権擁護局総務課長通知の違憲性 横田耕一

近世後期天王寺長吏林家における相続をめぐる一長吏文書研究会の活動より一 上 高久智広

サイバースペースにおける人種主義および排外主義と闘う一ヘイトスピーチに影響する法的問題および国際協力を促進する方法一 下 アンニ・カレル/中原美香翻訳

地域で4%の子どもたちの存在が大きく見える学校づくり一茨木市立郡山小学校での試み一 太田貴子

フランス差別禁止政策の新展開一「反差別闘争及び平等のための高等機関」を中心に一 窪誠

書評

竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う 西洋的パラダイムを超えて』 青木保/アジット・S・バラ/フレデリック・ラペール著、福原宏幸・中村健吾監訳『グローバル化と社会的排除 貧困と社会問題への新しいアプローチ』

樋口明彦/箕面市史改訂版編さん委員会『改訂箕面市史 部落史 史料編3』 朝治武

**部落解放研究 12** (広島部落解放研究所刊, 2006. 3)

「人権擁護法案」にみる反人権性 岡田英治  
勝ち取ることの背中一野宿者支援における「代行」の引き受け一 山北輝裕

煩惱論 小森龍邦

広島県の外国人の居住動向一統計資料の分析を中心に一 伊藤泰郎

マイノリティー (在日韓国人一世) の福祉の現場で 安錦珠

現代の妖怪一テロリズムの解剖一 青木秀男

山本政夫研究、その問題意識 山本真一

**部落解放史ふくおか 120号** (福岡県人権研究所刊, 2005. 12) : 1,050円

特集 部落改善から融和へ 1

明治・大正期、被差別部落への北海道移住奨励・事業に

ついでに試論 1 大藪岳史/再編期中央融和事業協会と山本正男一内部自覚運動論による融和運動の自立一 朝治武

教科書は今 石瀧豊美

にんげん・羽音豊 4 羽音豊調査研究プロジェクト

書評 『水平社宣言・解放歌』 (守安敏司/藤田正/朝治武著) 桐原健司

ビデオ評 『裸足の1500マイル』一盗まれた世代のアボリジニ (監督フィリップ・ノイス, 2002年, オーストラリア) 船津建

**部落解放史ふくおか 121号** (福岡県人権研究所刊, 2006. 3) : 1,050円

特集 部落改善から融和へ 2

福岡県における融和事業一1930年代、部落経済更生運動期における全水とのかかわりを中心に 田原行人/明治・大正期、被差別部落への北海道移住奨励・事業についての試論 2 大藪岳史

堺利彦農民労働学校 4一第三期講義内容の検討一 小正路淑泰

にんげん・羽音豊 羽音豊調査研究プロジェクト

書評 『さわってごらん、ぼくの顔』 (藤井輝明著) 西尾紀臣

**部落問題研究 174** (部落問題研究所刊, 2005. 12) : 1,111円

地域社会と身分的周縁 信濃国下伊那郡を中心として一 吉田ゆり子

男女雇用機会均等法改正に向けての課題 秋田ふさ子

愛媛における「部落寺院」をめぐる一 下 高市光男

書評 日本社会教育学会編『現代的人権と社会教育の価値』 生田周二

部落問題文芸作品発掘 11 太陽は輝きたり (抄) 第1篇 曠原の黎明 (過去篇) / 第3篇 燃ゆる蒼穹 倉田一郎

**ライツ 81** (鳥取市人権情報センター刊, 2006. 2)

今月のいちおし! 『誰も私の尊厳は奪えない』 (ローザ・パークス著) 坂根政代

**ライツ 82** (鳥取市人権情報センター刊, 2006. 3)

ビデオ 「人間の尊厳を求めて一解放運動50年 森田益子一」 椋田昇一

**立命館経済学 319号** (立命館大学経済学会刊, 2006. 1) : 500円

「二字之醜名」をめぐる一身分呼称と歴史認識の再検討一 畑中敏之

**歴史学研究 810** (青木書店刊, 2006. 1) : 720円

書評 黒川みどり『つくりかえられる徴一日本近代・被差別部落・マイノリティー』 友常勉

1) : 500円

またしても空振りか—結婚差別事件をめぐる解放同盟の  
〈迷走〉と〈内紛〉 寺園敦史

**ねっとわーく京都 205** (ねっとわーく京都21刊, 2006.  
2) : 500円

特集 市政レポート 1 同和行政 京都市に議会はいら  
ないのか 上鳥羽建設不法占有問題で露呈した深刻さ 寺園  
敦史

**ねっとわーく京都 206** (ねっとわーく京都21刊, 2006.  
3) : 500円

同和行政ウォッチング 同和施設不法占有業者追い出し  
に着手。だが、新たな火種を抱え込む!? 寺園敦史

ウォッチャーレポート 25 同和温泉旅行事件—大阪高裁  
で和解が成立 村井豊明

**ねっとわーく京都 207** (ねっとわーく京都21刊, 2006.  
4) : 500円

市政レポート 同和行政ウォッチング 嘘が確定しても  
「勝訴和解」とは一恥ずかしいぞ! 解放同盟 寺園敦史

**ヒューマンライツ 214** (部落解放・人権研究所刊, 20  
06.1) : 525円

走りながら考える 耐震強度偽装事件の根源を考える—  
差別糾弾闘争のように取り組め— 北口末広

現代史の目 49 重慶と大阪の交流 小山仁示

部落問題に向きあう意味を考える 大阪人権博物館特別  
展「部落問題に向きあった100人」 朝治武

人権教育に欠かせないものとは 「文部科学省人権教育  
調査研究会議取りまとめ」を手がかりに考える 川村暁  
雄

**ヒューマンライツ 215** (部落解放・人権研究所刊, 20  
06.2) : 525円

鳥取県人権侵害救済推進及び手続に関する条例—批判に  
対する多角的検討 内田博文

現代史の目 50 自由民権家と天皇制 小山仁示

**ヒューマンライツ 216** (部落解放・人権研究所刊, 20  
06.3) : 525円

現代史の目 51 3・10東京大空襲 小山仁示

**ひょうご部落解放 119** (ひょうご部落解放・人権研究  
所刊, 2005.12) : 700円

部落解放研究第26回兵庫県集會報告書

**広島修大論集 人文編 88号** (広島修道大学人文学会刊,  
2006.2)

「総合的な学習の時間」と人権学習 笹尾省二・大庭宣  
尊

**部落解放 560号** (解放出版社刊, 2006.1) : 1,050円

部落解放・人権入門2006 第36回部落解放・人権夏期講  
座報告書

**部落解放 561号** (解放出版社刊, 2006.2) : 630円

特集 土方鐵の文学世界

小説家・土方鐵の足跡 「地下茎」から「小説 石田波郷」  
にいたる 吉田永宏 / 「地下茎」と「破戒」それぞれの  
登場人物をめぐる 山口公博 / 土方鐵と現代俳句 直原  
弘道 / 「差別と表現」と土方鐵 笠松明広

差別の精神史 32 差別のフォークロア 東日本編 5 赤坂  
憲雄

本の紹介

『源流』(水交会 大阪部落出身教職員の会編) / 『存  
在の大地』(高史明・芹沢俊介・上田紀行著) / 『この  
時代に異議あり やわらかく、したたかに生きる』(鎌  
田慧著) / 『レイラ・ザーナ クルド人女性国会議員の  
闘い』(中川喜与志・大倉幸宏・武田歩編) / 『新・買っ  
てはいけない2006』(境野米子・渡辺雄二著) / 『「ニュー  
ヨークタイムズ」神話』(ハワード・フリール, リチャー  
ド・フォーク著)

鳥取県人権侵害救済条例の制定について 部落解放同盟  
鳥取県連合会

「戦争マラリア」と憲法九条 沖縄・八重山諸島の老い  
の風景 山本宗補

見なされる差別考 5 忌避する論理 2 奥田均

差別の歴史を考える 17 近代日本の人間平等宣言 ひろ  
たまさき

**部落解放 562号** (解放出版社刊, 2006.2) : 1,050円

部落解放研究第39回全国集會報告書

**部落解放 563号** (解放出版社刊, 2006.3) : 630円

特集 識字・日本語学習の展開

差別の精神史 33 差別のフォークロア 東日本編 6 赤坂  
憲雄

本の紹介

『部落差別はなくなったか? 隠すのか顕すのか』(塩  
見鮮一郎著) / 『〈差別と人間〉を考える 解放教育論  
入門』(八木晃介著) / 『差別論 偏見理論批判』(佐  
藤裕著) / 『わかりやすさの本質』(野沢和弘著) /  
『辛基秀と朝鮮通信使の時代 韓流の原点を求めて』  
(上野敏彦著) / 『悲の海は深く』(高史明著)

人権の正しい理解にもとづく教育を 文部科学省「人権  
教育の指導方法等の在り方について [第二次とりまとめ]  
(案)」から考える 川村暁雄

見なされる差別考 6 忌避意識解体への模索 奥田均

差別の歴史を考える 18 文明と野蛮の分割 ひろたま  
さき

**部落解放 564号** (解放出版社刊, 2006.4) : 630円

特集 人権のまちづくり

差別の精神史 34 差別のフォークロア 東日本編 7 赤坂  
憲雄

本の紹介 『ハンセン病市民学会年報2005』(ハンセン



- 人権と部落問題 739** (部落問題研究所刊, 2005. 12) : 630円  
 特集 ねらわれる憲法24条  
 文芸の散歩道 「部落問題文藝の提唱」をした融和運動家 『楠本寛遺稿追悼集』 秦重雄  
 差別と向き合うマンガたち 21 「誤読」と説明責任 1 西原理恵子『毎日かあさん』問題 表智之
- 人権と部落問題 740** (部落問題研究所刊, 2006. 1) : 630円  
 特集 「つくる会」公民教科書批判  
 靖国神社を考える 鈴木良  
 文芸の散歩道 都市社会最底辺の現実—宮下忠子『東京のどん底から…老いゆく路上生活者の声を聴く』— 渡辺巳三郎  
 差別と向き合うマンガたち 22 マンガと偏見の不可避な関係—「サイボーグ009」が読めるということ— 吉村和真
- 人権と部落問題 741** (部落問題研究所刊, 2006. 2) : 630円  
 特集 生きる権利3  
 鳥取県「人権条例」の発動を許さず！一部差差別解消に逆行、自由にものが言えない社会をつくる— 田中克美  
 文芸の散歩道 原田琴子の反戦思想と「家」制度批判 成澤榮壽  
 差別と向き合うマンガたち 23 神話の中の歴史、現実の中の神話 マンガと神話の語り 田中聡
- 人権と部落問題 742** (部落問題研究所刊, 2006. 2) : 1, 155円  
 特集 市町村合併と同和教育  
 担任教師の役割を問う—同和教育運動の教育実践から— 東上高志  
 新たな発展をめざして—夏期講座を閉じるにあたって— 成澤榮壽
- 人権と部落問題 743** (部落問題研究所刊, 2006. 3) : 630円  
 特集 メディアの役割を問う  
 本棚 鈴木良著『水平社創立の研究』 竹永三男  
 差別と向き合うマンガたち 24 自分をマンガに描くということ—西原理恵子『毎日かあさん』問題 2 表智之
- 季刊人権問題 3号** (兵庫人権問題研究所刊, 2006. 1) : 735円  
 兵庫県における戦後部落解放運動と兵庫県政 上 杉之原寿一
- 月刊スティグマ 118号** (千葉県人権啓発センター刊, 2005. 12) : 500円  
 特集 福祉制度改革
- 月刊地域と人権 264** (全国地域人権運動総連合刊, 2006. 1) : 350円  
 沖繩戦の実相—「つくる会」による改ざんの動きをめぐって 林博史  
 同和教育の終結と人権教育の状況 梅田修  
 新中学校教科書の部落問題記述を批判する 2 小牧薫
- 月刊地域と人権 266** (全国地域人権運動総連合刊, 2006. 3) : 350円  
 在日外国人の高齢者福祉の現状と課題—在日コリアン高齢者との歩みから考える— 金宣吉  
 鳥取県人権救済条例の施行延期にあたって 新井直樹
- 同和教育 526** (全国同和教育研究協議会編, 2006. 1) : 150円  
 人権文化を拓く 106 妨げるのは人、助けてくれるのも人 坂本達
- 同和教育 527** (全国同和教育研究協議会編, 2006. 2) : 150円  
 人権文化を拓く 107 記憶を巡る闘い—NHK番組改変と政治圧力問題を巡って— 西野瑠美子
- 同和教育 528** (全国同和教育研究協議会刊, 2006. 3) : 150円  
 人権文化を拓く 108 障害者の不利益はすべての人の不利益 白杉滋朗
- どの子も伸びる 360** (部落問題研究所刊, 2006. 1) : 735円  
 特集 特別支援教育を考える  
 「人権教育」とは 「反差別の生き方」を問う部落問題・人権学習 谷口幸男
- どの子も伸びる 361** (部落問題研究所刊, 2006. 2) : 735円  
 「人権教育」とは 「人権総合学習」の中での部落問題学習 谷口幸男
- どの子も伸びる 362** (部落問題研究所刊, 2006. 3) : 735円  
 「人権教育」とは 自民党「新憲法草案」と人権教育 谷口幸男
- どの子も伸びる 363** (部落問題研究所刊, 2006. 4) : 735円  
 「人権教育」批判 「『人権教育』批判」を連載するにあたって 谷口幸男
- なら解放新聞 729号** (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2005. 12) : 140円  
 痛ましい事件の背後にあるもの 3 社会の「外」でなく「内」にある犯罪 浜田寿美男
- なら解放新聞 731号** (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2006. 2) : 140円  
 母子家庭を取り巻く現状と問題点  
 痛ましい事件の背後にあるもの 5 社会の「外」でなく「内」にある犯罪 浜田寿美男
- ねっとわーく京都 204** (ねっとわーく京都21刊, 2006.

講座報告 ハンセン病差別と部落差別 下 藤野豊

**かわとはきもの 134** (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2005. 12)

靴の歴史散歩 79 稲川實

シリーズ姫路革 5 加工技術の分類では中間的な姫路革  
出口公長

皮革関連統計資料

**季節よめぐれ 216号** (京都解放教育研究会刊, 2006. 1)

学力問題から学校づくりへー「力のある学校」とはー  
志水宏吉

**季節よめぐれ 217号** (京都解放教育研究会刊, 2006. 2)

「水平社創立の思想ー水平社博物館の展示から見えるものー」  
守安敏司

**季節よめぐれ 218号** (京都解放教育研究会刊, 2006. 3)

奈良県三郷町下之庄の歴史 上野茂

**季節よめぐれ 219号** (京都解放教育研究会刊, 2006. 4)

奈良県における「部落史の見直し」について 山村雅史

**クロノス 24** (京都橘大学女性歴史文化研究所刊, 2006. 3)

BOOK REVIEW 『アボリジニ社会のジェンダー人類学 先住民・女性・社会変化』(窪田幸子著) 藪田千寿子

**グローブ 44** (世界人権問題研究センター刊, 2006. 1)

信用・公益・救済 木下光生

**藝能史研究 171** (藝能史研究会刊, 2005. 10) : 1,800円

乞食者を「ほかひひと」と訓むことについて 山本尚友

**国際人権ひろば 65** (アジア・太平洋人権情報センター刊, 2006. 1) : 350円

特集 アジアの子どもの人権

**こべる 155** (こべる刊行会刊, 2006. 2) : 300円

部落のいまを考えるー第22回部落問題全国交流会に参加して 熊谷亨

先入観を捨てるー山本美芽著『りんごは赤じゃないー正しいプライドの育て方』 坂倉加代子

自分を問いなおす 重信陽子

横浜・寿識字学校から 1 人間全体を学ぶ場 大沢敏郎

**こべる 156** (こべる刊行会刊, 2006. 3) : 300円

インタビュー 町をつくりかえる 1 地域への愛着心を育てる 中村勉+藤田敬一

いのちー生き合う 1 杉山光洋

荒れた作業所 高田嘉敏

学校の風景から 2 部活動 中西宏次

**こべる 157** (こべる刊行会刊, 2006. 4) : 300円

インタビュー 町をつくりかえる 2 町づくりの基本は子育て 中村勉+藤田敬一

私に何ができるか 片岡健

横浜・寿識字学校から 2 未完の架け橋 大沢敏郎

学校の風景から 3 組立体操 長谷川洋子

**コリアNGOセンターNewsLetter 7** (コリアNGOセンター刊, 2005. 12)

書籍紹介

『<ワンコリア>風雲録 在日コリアンたちの挑戦』

(鄭甲寿著) / 『在日一世 日本全土で生きてきた在日一世90人の軌跡』 (李朋彦著)

**月刊滋賀の部落 386** (滋賀県同和问题研究所刊, 2006. 1) : 400円

鳥取県人権救済条例の批判的検討 川辺勉

戦後同和教育の証言 息郷小 宇野徳樹と第3回全同教大会 鈴木俊亮

**月刊滋賀の部落 387** (滋賀県同和问题研究所刊, 2006. 2) : 400円

大正前半期の部落改善運動について 山田稔

戦後同和教育の証言 野洲中学校 林嘉一郎ー夜間補習の取り組みー 鈴木俊亮

困窮人お救い米 藤田恒春

**月刊滋賀の部落 388** (滋賀県同和问题研究所刊, 2006. 3) : 600円

戦後滋賀の同和教育と谷口勝巳 山田稔

戦後同和教育の証言 運動と教育の統一 谷義治ー甲賀の地で活躍ー 鈴木俊亮

**月刊滋賀の部落 389** (滋賀県同和问题研究所刊, 2006. 3) : 400円

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県副委員長 朝野温知 1 鈴木俊亮

**種智院大学研究紀要 7号** (種智院大学刊, 2006. 3)

社会学者・米田庄太郎の青春 田中和男

**人権21 調査と研究 180** (岡山人権問題研究所刊, 2006. 2) : 650円

特集 部落問題解決の「逆流」

岡山県内の「逆流」ー繰り返される「分裂」と「糾弾」

中島純男 / 「確認・糾弾」を合法化する鳥取県人権条例 田中克美 / 謎の部落史 大森久雄

**人権教育研究 14号** (花園大学人権教育研究センター刊, 2006. 3)

どうすれば臍らずにすむか? 吉田智弥

「生命の消費」としての医療ーパターンリズムと自己決定と病者・医者関係 八木晃介

恩を仇で返された村 丸山顯徳

隠蔽された供述調書 1 「暴行被害者」が真実を語って偽証罪に問われた事案ー 脇中洋

差別問題をめぐる<包摂>論の限界性ー日本基督教団を事例にー 堀江有里

人権卵黄論 島崎義孝

研究ノートの覚書のようなもの「私的、今は昔のメモリアル」

その3ー障害者市民、かく闘えり!ー 河野秀忠

二度と再び戦争への道を歩んではならぬ 辻光文

**解放新聞 2256号** (解放新聞社刊, 2006. 2. 13) : 80円  
映画「ホテル・ルワンダ」(テリー・ジョージ監督)

**解放新聞 2257号** (解放新聞社刊, 2006. 2. 20) : 80円  
今週の1冊 『DVサバイバー 二次被害ともたたかっつ』  
(北村明子著)  
山口公博が読む今月の本  
『人権の原理と展開』(村田恭雄著) / 『戦後史』(中村政則著) / 『信長の棺』(加藤廣著)

**解放新聞 2258号** (解放新聞社刊, 2006. 2. 27) : 80円  
今週の1冊 『自律と協働、はたらきがいをもとめて 大阪市現業労働者の60年』(鎌田慧著)

**解放新聞 2259号** (解放新聞社刊, 2006. 3. 6) : 120円  
今週の1冊 『教育現場に「心の自由」を! 「君が代」強制を問う北九州の教職員』(田中伸尚著)  
ぶらくを読む 10 大道・放浪芸と小沢昭一 湧水野亮輔  
人権教育「第2次とりまとめ」の活用を考える 平沢安政  
ハンセン病問題 これまで/これから 終 田中等

**解放新聞 2261号** (解放新聞社刊, 2006. 3. 20) : 80円  
『破戒』は何を残したか 音谷健郎

**解放新聞 2262号** (解放新聞社刊, 2006. 3. 27) : 80円  
今週の1冊 『痛憤の現場を歩く』(鎌田慧著)  
山口公博が読む今月の本  
『和人文文化論 その機軸の発見』(川元祥一著) / 『東と西の語る日本の歴史』(網野善彦著) / 『三文役者の死 正伝 殿山泰司』(新藤兼人著)

**解放新聞改進版 343号** (部落解放同盟改進黨支部刊, 2006. 1)  
改進黨地区の歴史 其の1

**解放新聞改進版 344号** (部落解放同盟改進黨支部刊, 2006. 2)  
改進黨地区の歴史 其の2

**解放新聞京都市版 172号** (部落解放同盟京都市協議会刊, 2006. 2) : 100円  
京都市内の被差別部落の過去・現在・未来 歴史編その3  
5 首切り又次郎から犬神人へ 16 山内政夫

**解放新聞京都市版 173号** (部落解放同盟京都市協議会刊, 2006. 3) : 100円  
京都市内の被差別部落の過去・現在・未来 歴史編その3  
6 首切り又次郎から犬神人へ 17 山内政夫

**解放新聞京都版 713号** (解放新聞社京都支局刊, 2006. 2. 10) : 70円  
連載部落史 東三条「天部村」ふるさとをみつめて 16

**解放新聞京都版 714号** (解放新聞社京都支局刊, 2006. 2. 20) : 70円  
連載部落史 東三条「天部村」ふるさとをみつめて 17

**解放新聞京都版 715号** (解放新聞社京都支局刊, 2006. 3. 1) : 70円  
連載部落史 東三条「天部村」ふるさとをみつめて 18

**解放新聞京都版 716号** (解放新聞社京都支局刊, 2006. 3. 10) : 70円  
連載部落史 東三条「天部村」ふるさとをみつめて 19

**解放新聞広島県版 1803号** (解放新聞社広島支局刊, 2006. 1. 25)  
同和教育に学ぶ「教育改革」をめざして—いま私たちに問われていること— 1 外川正明

**解放新聞広島県版 1804号** (解放新聞社広島支局刊, 2006. 2. 1)  
同和教育に学ぶ「教育改革」をめざして—いま私たちに問われていること— 2 外川正明

**解放新聞広島県版 1805号** (解放新聞社広島支局刊, 2006. 2. 8)  
同和教育に学ぶ「教育改革」をめざして—いま私たちに問われていること— 3 外川正明

**解放新聞広島県版 1806号** (解放新聞社広島支局刊, 2006. 2. 15)  
同和教育に学ぶ「教育改革」をめざして—いま私たちに問われていること— 4 外川正明

**語る・かたる・トーク 131** (横浜国際人権センター刊, 2006. 1) : 500円  
信州の近世部落の人びと 9 斎藤洋一  
同和教育再考 61 「同対審」—その舞台裏 4 田村正男  
わたしと部落とハンセン病 4 林力  
部落差別の現実 42 教育と啓発 5 江嶋修作

**語る・かたる・トーク 132** (横浜国際人権センター刊, 2006. 2) : 500円  
信州の近世部落の人びと 10 斎藤洋一  
同和教育再考 62 「同対審」—その舞台裏 5 田村正男  
わたしと部落とハンセン病 5 林力  
部落差別の現実 43 「ある」のに「ない」ことに 1 江嶋修作

**語る・かたる・トーク 133** (横浜国際人権センター刊, 2006. 3) : 500円  
信州の近世部落の人びと 11 斎藤洋一  
同和教育再考 63 「同対審」—その舞台裏 6 田村正男  
わたしと部落とハンセン病 6 林力  
部落差別の現実 44 「ある」のに「ない」ことに 2 江嶋修作

**カトリック大阪教会管区部落問題活動センターたより 正月号** (カトリック大阪教会管区部落問題活動センター刊, 2006. 1)  
宗教者として運動の関わりのなかで 前川修

**カトリック部落問題委員会ニュースレター 101** (カトリック部落問題委員会, 2006. 1)  
講座報告 ハンセン病差別と部落差別 上 藤野豊

**カトリック部落問題委員会ニュースレター 102** (カトリック部落問題委員会刊, 2006. 3)

# 収集逐次刊行物目次 (2006年1月~3月受入)

~各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました~

**明日を拓く 62・63** (東日本部落解放研究所刊, 2005.12) : 2,100円

特集 狭山事件・冤罪事件と裁判の動向

**跡地発 32** (大阪市よさみ人権協会刊, 2006.1)

シリーズ十人十色の部落問題 25 部落差別と宗教 神戸修

**IMADR-JC通信 141** (反差別国際運動日本委員会刊, 2006.3) : 500円

特集 職業と世系に基づく差別の撤廃に向けた国際連帯本の紹介 『声を刻む 在日無年金訴訟をめぐる人々』 (中村一成著) 李月順

**ウィングスきょうと 72号** (京都市女性協会刊, 2006.2)

図書情報室新刊案内

『音楽サロン—秘められた女性文化史』 (ヴェロニカ・ベーチ著) / 『女職人になる』 (鈴木裕子著)

**岡山部落解放研究所報 275号** (岡山部落解放研究所刊, 2006.2) : 100円

新刊紹介 斎藤洋一著 『被差別部落の生活』 好並隆司

**解放教育 458** (解放教育研究所編, 2006.1) : 730円

特集 いのち・ぬくもり・つながり、そしてきぼうへにんげんセミナー2005 ミニ講演報告

元気のもととはつながる仲間 10 いま、ここで声をあげなければ (緊急報告) 外川正明

資料 「人権教育の指導方法等の在り方について 第二次とりまとめ (案)」に対するパブリック・コメント

**解放教育 459** (解放教育研究所編, 2006.2) : 730円

特集 子どもの権利学習プログラムを創る

元気のもととはつながる仲間 11 事実を誠実に伝えることを歌声に込めて 外川正明

**解放教育 460** (解放教育研究所編, 2006.3) : 730円

特集 人権教育「第二次とりまとめ」を学校現場の視点で読む

元気のもととはつながる仲間 12 あの子に銃なんかもたしとないんよ 外川正明

解放教育・バックナンバー (449号~460号)

**解放教育 461** (解放教育研究所編, 2006.4) : 740円

特集 グローバル時代の学級集団づくりと仲間づくり

元気のもととはつながる仲間 だから、だまってられへん 外川正明

倫敦マイノリティ事情 1 概説イギリスのエスニック・マイノリティ教育 志水宏吉

図書紹介 『学力を育てる』 (志水宏吉著) 桜井輝之

**解放新聞 2252号** (解放新聞社刊, 2006.1.16) : 80円

対談 高山文彦, 組坂繁之

今週の1冊 『この時代に異議あり』 (鎌田慧著)

**解放新聞 2253号** (解放新聞社刊, 2006.1.23) : 80円

対談 高山文彦, 組坂繁之

図書紹介 『アフリカ人都市経験の史的考察 初期植民地期ジンバブウェ・ハラレの社会史』 (吉國恒雄著) 崎山政毅

今週の1冊 『戦後60年を問い直す』 (「世界」編集部著)

**解放新聞 2254号** (解放新聞社刊, 2006.1.30) : 80円

ぶらくを読む 9 湧水野亮輔

今週の1冊 『日中100年史 二つの近代を問い直す』 (丸川哲史著)

山口公博が読む今月の本

『学力は家庭で伸びる』 (陰山英男著) / 『アキラの地雷博物館とこどもたち』 (アキ・ラー編著) / 『女子アナ失格』 (戴本雅子著)

**解放新聞 2255号** (解放新聞社刊, 2006.2.6) : 120円

2006年度一般運動方針 (第1次草案)

## 事務局より

6頁でお知らせしていますように今年度も部落史連続講座を開催いたします。今年度は開催を二期に分け、前半を5月から6月、後半を10月から12月にかけて行い全6回の開催予定です。後半期分はホームページ・メールマガジン等でお知らせいたしますので是非ご参加ください。

□所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター3階

□TEL/FAX 075-415-1032

□URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

□開室日時 月曜日~金曜日 第2・4土曜日 10時~17時 (祝日・年末年始は休みます)

□交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅 (京都駅より約10分) 下車 北へ徒歩2分